

◎道真公は文武両道の超エリート。

太宰府天満宮に祀られている菅原道真公は、承和12年(845年)6月25日、代々学者の家系に京都で生まれました。幼少の頃から文才に優れ、18歳で律令制度の国家公務員試験の科目のひとつ「進士」に、23歳でさらに上級の「秀才」に、33歳で文章(モンゾウ)博士となりました。28歳の時に正月の弓始めの式で百発百中の箭射を示し人々を驚かせたともいわれています。以後、その才を発揮し出世、醍醐天皇の時に55歳で右大臣に上り詰めました。道真公の異例の出世が、権力者藤原氏の鼻につき、延暦元年(901年)藤原時平の讒言によって失脚し、大宰権帥(ダサイゴンノツチ)に左遷されてしま



▲菅原道真

◎一夜にして京より飛

んで来た梅。道真公は都を去るとき、「東風吹がば にほひおこせよ梅の花 あるになしとて 春を忘れず」と詠みました。その道真公の愛した梅が、あるじを慕って一夜にして京都から太宰府に飛んできたという「飛梅」の伝説はあまりにも有名ですね。梅は太宰府天満宮のシンボルツリーとなり、今や6000株にも増え早春の光のなかで匂やかな花が咲き誇ります。5、6月頃に実った梅は、梅酒にされ、天満宮のお神酒として販売されています。また飛梅の種を第二層に包んだお守りや、この伝説にちなんで「航空安全御守」は全国でも珍しいお守りとなっています。



▲天満宮の梅



▲梅+お守り

◎梅ヶ枝餅のはじまりは…?

太宰府天満宮にお参り、いわゆる「家府参り」のお土産として全国に知られているのが梅ヶ枝餅。焼きたてのパリッとした歯ごたえとあんのみずみずしさ、家府参りの梅り道、煎豆であつあつを頬張るのが家府スタイル。さて、この餅



▲梅ヶ枝餅